

現在の教育行政はヨウカンを切るような発想ばかり

道徳教育について

Q. 三宅隆介 公立学校の一部に、授業の開始・終了時の挨拶を子どもたちにさせていない学校があります。挨拶は道徳上の基本だと思いますが？

A. 教育長 挨拶は大切な行為です。今後、学校の実態に応じて適切に指導してまいります。

三宅隆介の視点

道徳という基本的土台のないところには、いかなる技術も知識も蓄積されません。今の教育行政は、40人学級を35人学級にするとか、3学期制を2学期制にするとか、まるでヨウカンの切り方を変えるような発想ばかり。切り方をいくら変えてもヨウカンの味は変わりません。道徳の土台をどうするかという本質をついた改革議論が必要です。（但し、道徳教育は一義的には家庭の責任）

教育委員会の形骸化を指摘

Q. 三宅隆介 教育委員会ではこの10年間、採決の際に賛否が分かれた議決がありません。このことは中立性の確保の点でも疑問があると思われませんか？

A. 教育長 ささまざまな角度から闊達に議論し、合議を諮ることは意義にかなったものと考えます。

三宅隆介の視点

民主主義の原点は多数決であり、決して全会一致ではありません。近年、教育の荒廃がこれだけ叫ばれている中で、教育委員会が常に全会一致で議決されていることに強い不安と疑問を感じます。

保育所の待機児童ゼロに

Q. 三宅隆介 保育所の待機児童は増加しており解消に向けた取り組みはどのように進んでいるんですか？

A. 健康福祉局長 民設民営を基本に保育所整備をすすめ、指定管理者制度以外にも施設の譲渡方式なども検討してまいります。

三宅隆介の視点

これまで本市の保育所運営は極めて直営率の高いものでした。また、役所につくった規格・基準がサービスの画一化をもたらしている為、利便性が向上しないのは必然です。新しい保育所運営に果敢に挑戦する事業者をもっと支援すべきです。

市バスに運転者名の掲示を

Q. 三宅隆介 市バスの運転マナーについて市民からの苦情が多く寄せられています。民間宅配業者のように市バスの外壁に運転者の氏名を掲載することも検討すべきでは？

A. 交通局長 氏名掲示は関係者の意見を参考に検討していきます。

三宅隆介の視点

市民の信頼を得られなければ、事業そのものが生き残れません。市バス職員のモラル向上を図るため、市バスの外壁に運転者名を掲示することを提案します。くれぐれも民間のバス会社が実施導入した後に、市バスが追随するようなことのないよう取り組んで欲しいものです。

用途規制から環境規制へ

Q. 三宅隆介 用途地域を職種や業種で規制するのではなく、騒音、煙、電磁波などの環境基準によって規制した方が新規産業を起業しやすく、街の活性化につながると思いませんか？

A. まちづくり局長 時代に即したまちづくりを考えてまいります。

三宅隆介の視点

建築行為を規制している現在の都市計画法は昭和45年当時の社会状況を前提としています。また、都市計画法でいう用途制限は社会主義思想を前提としています。時代の変化とともに、これら用途規制も見直されるべきで、これからは環境規制（例えば、騒音や汚水や電磁波など）による新たな秩序で街づくりをすすめていく必要があります。